



広島について最も心に響いたのは人間の残酷さと怖さです。もともと戦争は残酷で、悲惨なものではあるでしょうが、35万人も住んでいた、大きな都市に原爆を投下したことは、許すべからざる行為に間違いありません。人種、国籍が違うだけで、人間が人間に核兵器を使って屈服させ、従わせようとするのは、野性の動物と一緒にでしょう。次に感じたのは、人間の愚かさです。広島原爆を始め、ソ連やインドなどの国が続々と太平洋や砂漠などで原爆の実験を行いました。その実験が環境に与える悪影響は決して小さくありません。今は地球温暖化を始め、自然災害が世界各地で頻りに起きています。また、貴重な動物の滅種を心配しなければならない時代にもなりました。要するに、原爆の実験や無分別な産業の発達のために破壊した自然が今の自然災害をもたらした、世界中に安全な場所がなくなったということです。

その反面、京都では日本だけの伝統文化を維持している京都のソフトパワーに心を惹かれました。上で述べた原爆といったハードパワーは武力で相手を脅かし反発感を感じさせます。しかし、国の伝統文化というソフトパワーは、よく管理し維持することで外国人が自ら足を運んで訪問するほど魅力のあるものになります。実際に京都には、日本の伝統文化を楽しんでいる外国人が溢れていました。もともと祖先から頂いたものを子孫たちに継がせることが大事だと思っていた私にとっては、とても意味のある旅行でした。



～広島・京都の旅～



パク ミヨンス

今日なお人間は野心や傲慢を持ったままで、異言語異文化・異国籍・異人種・異宗教などを言い訳にし、世界あちこちで戦争と戦いあい・脅しあいと殺しあいを起こしている。戦争が多かった国に生まれ、幼いころから戦争の残酷さをよく勉強させられてきた僕は、今回広島式典にて改めてその残酷さの理解を深めた。式典に数多くの被爆者が来ていたが、今もなお深刻な心身の傷に苦しんでいる姿を見て僕は心に痛みを感じた。そして、平和祈念館に展示してあった資料。焼けただれた顔、ポロポロになった服、焼け焦げて大きく腫れ上がった全身の肌という原爆死没者の写真――。見るに堪えなかった。一瞬、自分の五感が麻痺されたような気分になり、近くもなく遠くもない方からある声を感じていた。「助けて！世界の平和を！美しい自然を」。約4年前に長崎平和公園で感じられた声と同じだった。全世界の人たちはその声を、万象の共通語を無視しないでほしい。

グエン タン ルーン

私が一番印象に残ったのは子供代表の平和への誓いでした。広島に育つ彼らは、広島の被害、悲しみ、そして、強さを学びました。小さなころから平和のために努力し、被爆の事実を聞いたり、毎年千羽鶴を折り慰霊碑にさげたりしています。子供まで勇気をもって平和のために自分の力を尽くしていることで、大人になった私たちも何かをしなければならぬと思いました。私は留学生は平和の使者だと思います。国と国を繋げるとても重要な一人であり、良い文化をお互いの国に持って行き、友好的関係を築く義務があると思います。私もその一人としてこれから平和のために自分の力を尽くしたいと思っています。

尹 凌穎

資料館から出たとき、改めて平和の大切さを強く感じた。しかし、21世紀の今日に至っても、宗教、民族や国境領土などの問題をめぐり、世界のどこかでまだ戦争やテロが数多く起こっている。なぜ、紛争を解決するのに戦争という手段を選択したのだろうか。なぜ、無差別に尊い生命を簡単に奪うのだろうか？憎しみや怒りに支配され、命を軽視するテロリストや、戦争に踏み切った人の残酷さは、兵器よりもおそろしいものだと思う。平和という願いを実現するためには、紛争相手の相互理解、尊重が必要である。

では、平和構築に向けて私たち一人一人のできることは何であろうか。まずは日常生活の中で、家族や友人を大切に、お互いを理解しあうことが大事だと思う。そして、留学生として、積極的に他国の人々とのコミュニケーションを通じて、異文化に対する理解を深め、相手の価値観などを尊重することも不可欠である。このような一人一人の心を込めた思いやりがきっと平和につながるだろう。 張 怡

式場でいろいろな生の声を聞いた上で、「広島平和記念資料館」も見学しました。原爆が広島の人々にもたらした苦痛は一生どころか、何世代にわたっても続くことを実感しました。本当に悲しく思います。と同時に、国、年齢や性別等を問

わず、私たちが共同で世界平和の目標を掲げることの意義と重要性を深く認識しました。これから、何らかの形で世界平和事業に少しでも力になれば嬉しく思います。

また、京都の龍安寺では石の数を数えるように言われ、何回も数えましたがどうしても一つ少なくしか数えられませんでした。あとで、ミニ石庭の全景を見て「なるほど、観察の角度によって数が違ってくるのだ」と分かりました。今後の人生においても、「必ず」と結論づける前に、「本当にこういうふうに言い切れるのか」、「これはいろいろな角度から考えた結果なのか」と自分自身を問い直し、他人にとっても私にとっても、もう一度のチャンスが得られるよう頑張っていきたいと思います。 朱 潔

すべての思い出が一枚一枚の写真のように、頭に浮かんできます。新幹線で私の手作りのサンドイッチを食べていた皆さんの笑顔、宮島神社行きの豪華な船、初体験の紅葉饅頭、私の洋服まで噛んだ神社に住んでいる鹿、海の中にあるオレンジ色の大きい鳥居、日本で初めて泊まった洋式ホテル、初対面なのに明るく優しく接してくれた会館OBの李先輩、朝早起きして参加した平和祈念式、感動した広島子供代表の発言、あまり見えない安倍首相の顔、違う国籍でも真心を込めて祈る人々、爆発前後の立体地図、8時14分に止まった大きい時計、原爆の展示物を見て苦しい顔をする観光客、町の道路の真ん中を走っている電車、水と緑に囲まれている金閣寺、京都のイメージする着物を着ている女性トイレのマーク、沢山の焼き物を揃えている店、清水寺の神様の力を入れたような美味しい水、縁結びの神様の前で祈る着物を着ている女性たちなどなど。思えば、思うほど、今回の旅行は本当に楽しかったと思います。 張 曉静

## アイズイテイアイリ アプリケム（奨学生）

中国（新疆ウイグル）

千葉大学 融合科学研究科 情報科学専攻

### 自分の長所と短所

現在、私は融合科学研究科画像マテリアルコースの博士後期課程1年目であり、2年半の時間で専門知識を深く勉強したいと考えています。

自分の長所は、新しい知識と環境に強い好奇心を持っていることです。自国にいる時、私は日本の教育と文化に関する新聞をよく見ました。さらに、先進技術にふれ日本文化を体験するため、交換留学生の機会を利用し、日本に来たこともあります。また、私は学業に対して真摯な人物です。先生の指導を受け、私自身も一生懸命頑張ることで2013年の入学試験に合格することができました。

私の故郷はウイグル自治区にある貧乏な農村です。農民としての両親の収入は低く、さらに兄妹の4人が同じ大学に通学しています（姉の2人は大学院生、弟は大学生）。そのため、大学院の勉強を続け、学費等を支払い、

さらに日本の生活に適応するのは、私にとって非常に困難であり、人生の試練だと考えます。このような試練を解決するため、私は平日に通学して、週末にアルバイトを行っています。また、入学時から貴財団が支援する日本語教室で勉強させて頂いており、日本語が上達し、日本の生活と文化をさらに知ることができました。先生方には非常に感謝しております。

私の短所は、正確が内向的であることだと考えています。学業と経済の影響もあり、発信する機会が他の人より少ないです。また、気持ちが急いているとき、ミスすることがあります。朝、昼に学校で勉強して疲れていたため、アルバイト中の忙しい時に、仕事をたまに間違えてしまいました。

人それぞれ自分の長所と短所をもっていますが、自分自身を完全に把握することは難しく、友人からの指摘が大切だと考えます。常に自分の長所を伸ばし、友人から指摘された短所を直すことは、私にとってもう一つの人生の試練だと考えています。



## 弭 蘭（会館生） 中国（吉林省）

千葉大学 理学研究科 地球生命圏科学専攻

### 専攻科目の選考理由と将来の目標

2008年10月に、日本語学部の卒業生として、私は日本に留学に来た。しかし、当時勉強しようと思った専攻は、その4年前から好きになった日本語ではなく、環境問題に関係がある地球生命圏科学ということだった。

環境問題に興味を持つきっかけは小学校の時に見た映画から話したいと思う。その映画の内容は人類が実験のため、オゾン層へ有害な物質を放射し続けているうちに、実験用の設置をコントロールできなくなってしまった。もし爆発すると、地球は滅亡してしまうという厳しい現状の前に、一匹の犬が自分の命を掛けて地球を救った。なぜ今でもこの映画が頭に残っているかということ、当時10歳ぐらいの私は、環境問題にはそんなに関心をむけることはなかったけれども、犬が大好きだったので、心に非常にショックを受けたのだと思う。

母国の大学で日本語を勉強していた時に、日本の社

会と文化に関する授業は大好きな科目になった。4大公害に苦しめられた日本が現在ゴミまできちんと分類している国になったのにとっても感心し、「日本人の環境意識」を卒業論文のテーマとして決めた。

今まで日本で過ごしてきた5年半を振り返ると、ゼロからリモートセンシング技術を習う私は、研究室の先生と先輩達の丁寧な指導がないと博士に行けないのであるが、留学生活も周りの親切な人々の優しさがなかったら順調に進めなかったと思う。好きな犬を守りたかった幼い私でも、社会に役に立つことをやりたい今の私でも、この地球に生まれたことは本当に幸せだと思う。しかし、人間としては、ずっと貰う事ではなく、必ず返す気持ちを持っていかなくてはいけない。従って、卒業した後には、まず、優秀な社会人になり、身につけた技術を我々の自然と社会へ返す。また、今まで出会った優しい方々のように、頂いた優しさを助けが必要な人々へ返す。最後に、教師になり、その知識と人生の経験を広げて、優秀な若者を育てるように頑張りたいと思う。



## スラメット マイケル スサント（奨学生）

インドネシア（ジャカルタ）

千葉大学 工学研究科 人口システム科学専攻

### 自分の短所と長所

私はインドネシアからの留学生で、中学生の時から日本の技術や文化に憧れ、6年前に来日しました。では、ここからは私の長所と短所について述べていきます。

まず、長所についてですが、私は母国であるインドネシア語、そして英語と日本語の3ヶ国語を自由に扱う

ことができ、英語に関してはTOEICで990点を獲得しており、日本語では日本語能力試験1級を取得しています。特に、日本語に関しては会話に違和感がなく、むしろ日本人より詳しいとよく言われます。技術においては、特に情報系に力を入れており、ITパスポートと基本情報処理技術者の資格を取得しています。なお、授業出席にも努力し、日本に来てから3年連続皆勤賞を受賞しました。勉学以外には、スピーチコンテストに積極的





に参加し、過去には愛媛県内の留学生日本語スピーチコンテストで受賞したことがあります。また、スポーツや武術が好きで、テコンドー三級と剣道初段を取得しています。現在は文科系活動にも挑戦しようと思い、大学のアカペラサークルと留学生支援団体に所属し、いろんな活動に参加しています。そして、人間性において、私はリーダーシップが強く、大学に入る前の学校で学級委員を務めました。また、議論するのに積極的で、自分の意見をしっかり持ち、初志貫徹の志を持つつもりでいます。また、他人を思いやる心と正義感が強く、前にスピーチ

で食べ物を無駄にってしまう学生寮の食堂での事情を訴えたり、路上でゴミポイ捨てをする人を注意したりすることもあります。

短所に関しては、私は昔からかなり短気で、小さなことにもすぐ怒ってしまう性格です。しかし、日本の方々の影響か、最近はあまり怒りっぽくなくなってきました。また、私は物事を先送りにしてしまう癖があり、期限の直前になるまで作業を放置してしまいがちですが、最後にはちゃんと期限に間に合うよう努力し、万が一間に合わなければ正直に謝ります。

**陳 婧嫣**（奨学生） 中国（江蘇省）

滬徳大学 総合福祉研究科 社会福祉学専攻

### 自分の長所と短所

より客観的に自分を評価するために、何人かの友達に自分の長所と短所について聞いてみました。長所として一番多く挙げられたのは熱心さと几帳面なことでした。

人と接触することが好きで、大学時代から施設でボランティアをしたり、道でアンケートをしたりしています。専門は社会福祉であることにも関係があると思いますが、人を助けることは自分の使命だと感じています。頼まれたことは全力を尽くして、「何でも助けてくれて、断ることはなかった」と長い付き合いの友達から評価されました。

大学院に入ってから、積極的に学部の中国語授業に参加して、中国語に関心を持つ日本人学生たちに少しでも力になりたいと思ってきました。また、大学院にも関わらず、学校の中国語サークルに入って、中国語を教えたり、学園祭で頑張ったり、とても楽しんで

います。よく人に「血液型はA型でしょう。」と言われました。正直なところ私は自分の血液型がわかりません。どんなことでもやる前に、ちゃんと計画を立てたり、本を大きさできちんと並べたり、確かにA型のような几帳面な性格です。時にこだわり過ぎで、依怙地になることは自分の短所です。物を置く場所はほぼ決まっています、他人に移動されると、必ずその人の目の前にも関わらず、すぐ元の場所に戻します。待ち合わせる時も、「私は〇〇線に乗って、〇〇分に着きます。」と10時とか大体の時間ではなく、正確な時間を友達に伝えます。「細かすぎだよ」とよく文句を言われます。決まったことを最後までやらないと、気が済みません。「もういいです。」と言われても、やり続けて、周りの人を待たせたり、手伝いをしてもらったり、迷惑をかけまくっています。

これから、短所を克服して、もっと熱心にいろいろな活動に参加して、研究を頑張っていきたいと思っています。



**金 泳雄**（奨学生） 韓国（釜山）

千葉大学 融合科学研究科 情報科学専攻

### 自分の長所と短所

私が考えた自分の長所は慣れない場所に行っても自分から積極的に知らない人と会話を始めたり、その環境に早く慣れることです。またそこで仲良くした人との人間関係を大切にすることです。

私は、初めて今の研究室に来た時は言語や生活様式が違う一人の外国人でした。その時、私は周りの人にも実験のことや日本でのマナーについて聞きながら声を掛けました。それがきっかけで飲み会やソフトボール会に参加してもっと仲良くなり、今は一緒にご飯を食べたり、旅行に行ったり、時々相談もする仲間になりました。また日本で住んだ3年間、卒業した知り合いやアルバイトで知り合った友達とも正月や誕生日に連絡をとりながら関係を続けています。このような関係から今の研究分野を広げることもでき、日本で旅行する時にも助けになって、その関係をもっと大切にすることができました。

私の短所は興味ができたことに欲が深くなることで

す。研究や運動、趣味などに興味を持ったなら、枝が伸びるようにしたいことがたくさん生じますので、それをするため、自分に負担になってしまいました。このような自分の短所を直すために何かを始める時は細かい目標を段階的に決めて仕事を進めます。例えば、趣味でマラソンを始めた時は、最初10kmを1時間で走った後、ハーフコースの完走を2時間15分以内を目標に練習して、2時間4分で完走することができました。

自分の長短所を知っていますので留学をする時も色々考えて目標を決めました。最初は仲間を作ることと経済的に自立することを決め、周りの人に積極的に声を掛けて仲間を作り、飲食店でバイトを始めて、仕送りがなくても生活ができるようにしました。次は自分の研究について専門家になるため勉強した結果、論文発表は学会で受賞することができました。今後、卒業まではポストドクター課程のため、情報や知識を広げる交流会や学会に積極的に参加したいと思っています。



## 花火大会



8 2

9

## OB 来訪

7 22  
4

H4

8 20

H13

8 30

21  
8 5

9 18

13

4

9 21

18

9 27

H9

## 赤ちゃん誕生

6 21

22

8 10

12

8 19

17

9 6

9 21

15

7 17

10



~海水浴~

8 11 14

42

## 会館ニュース

7 13

9 10

1

9 24

9



## 2014

10 5

11 10

11 12

12 13

1 9

1 14

1 31

2 6

2 18

3 10

3 18

10 00 17 00